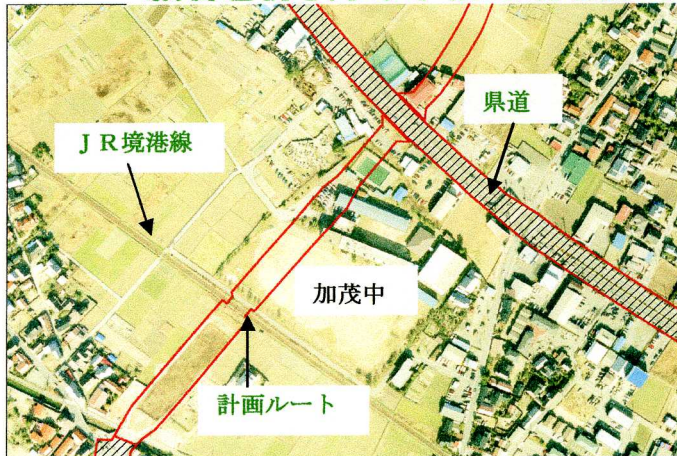


「加茂中」の全面移転を求めよう！&学校の環境を守ろう！

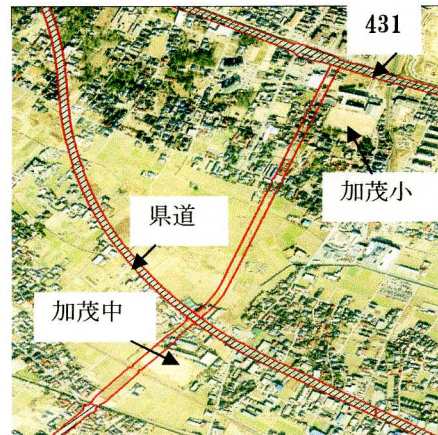
騒音と粉じんの学校環境を認めますか！生徒らの身体が心配です。



道路計画と「加茂中」の現況
道路の計画ルートは、現学校施設のグラウンド、校舎、プールに架かっている。
学校環境の現況は、JR境港線と県道に挟まれている。
計画道路は、平面交通ではなく跨線橋でJR線を跨ぐ。

道路計画と「加茂中」の現況

今、加茂中学校と道路計画を巡って、平成八年三月市議会の、「全面移転」の議会決議が、野坂市政の下で再び蒸し返されようとしています。
「議会決議」を変えなければならない理由は何か。
住民、市民の視点で再検証をしましょう！



特別教室の耐震補強予算を可決

計画ルート変更！

終点・調整必要！

「道路計画が先で、学校は後に建てた。当時、移転が条件になっていた。」計画ルートの変更を巡って、出口の見えない議論の応酬。

現実的には、米川から県道までの間は、現ルートを通す。それから終点の「加茂小」までの間は、国道四三二号線との取り付けと、「加茂小」の学校環境問題などがある。ルート修正が迫られる。

全面移転か！

部分移転か！

全面移転とは、……！

道路の計画ルートは、米川から県道までは変更しない。

学校施設は、教室棟、特別教室、体育館、プール、グラウンドなど、新たに用地を取得して全施設を移設する。

部分移転とは、……！

現在地で、跨線橋を挟んで片側に、教育棟、特別教室、プール、体育館などを移転・改築し、反対側に、用地を取得してグラウンドを新設する。

「全面移転」へ

前議会、全会一致

平成八年の三月市議会は、部分移転計画を止めて、「全面移転」の陳情書を全会一致で採択した。この背景に、七、二二名の加茂、河崎両校区の住民署名がある。

当時、前市長は、「良好な学習環境での施設を考えた時、学校の全面移転を考慮せざるを得ない。」と応えている。

移転費用と

事業計画！

市教委は、概算で移転費用を公表した。全面移転は、部分移転より約十億円多く試算している。

この約十億円の差は、用地取得費の差である。又、移転跡地の費用対効果が事業費に換算されていない。

この事業（道路と学校移転）の財源は、合併特例債と国の補助（防衛省を含む）を充当すれば負の遺産とはならない。事業着手年度は、平成二十六年度まで。

前市長の方針、「尊重」？

野坂市長は、前市長の全面移転を「尊重する」と言いながら、「あらゆる可能性を検討したい。」とも言っている。

「尊重」の選択は、「全面移転」の方法ではない。

「尊重」の意味の問いに、「尊重」という言葉以外に、説明責任が果たせない野坂市長に、天は、時を与えない。

学校移転事業費（推定）/全面移転 35.5 億円&部分移転 25.8 億円（市教委）